

千と希の設計図

Thousand and Dream Design

2024年
10月号
第43号

Hellenic Republic Greece

最近の若いやつあ

いろいろいる いろいろなる

思ったような
未来と違っ
たよな...

いろいろって具体的には？
そりやお前...
いろいろあるだろ、
いろいろと...



中年親父の苦悩

先日、取引先の社長さんと話をする機会がありました。英会話の先生相手に身の回りのいろんなことを話しているんだ」と言うのです。「向こうは仕事だからちゃんと聞いてくれるよね」として続けます。「だって、普段我々(年寄り)の話なんか誰も聞いてくれないじゃないですか」と。普段からがっつき「社長が尊敬している立派な人なのにそんな扱いなのか」と、世の中の無常を肩を落として帰って来たのを覚えています。

時代はどんどん流れ、自分の今ハマっているものがあつという間に前時代のものになり、培った自分の感覚が正しいのかもわからないまま、誰とも共有できない今日この頃...安堵感を得る同世代の人との会話は徐々に減っていき、世の中のおっさんは孤独が日常化するのであります。

世紀末救世主として活躍したケンシロウは未来の人だったのに、もう20年以上前の人になりましたし、携帯すらなかった時代の羽羽僚の実写映画に「UberEatsが出る違和感...」

そんな神谷明さん(ケンシロウや羽羽僚の声を当てた声優さん)に青春時代を牽引してもらったがっつき「社長が率いるデザイン事務所では、今日も若いデザイナーの作品を見てよしよしを指摘するわけですが、それが前時代的な感性をゴリ押ししているのか、普遍的なデザインのか基準からの確かな指示を出しているのかは未だ謎です(笑)。

2024年
10月号

株式会社サウザンドデザイン
東京都江東区扇橋1-12-16 宝ビル1F

デザインに関するお問い合わせ・お見積もりはいますぐ！
<https://www.thousanddesigns.com>

江東区デザイン会社

03-6666-4890 (10:00~18:45)
0120-095-905 (フリーダイヤル)
Eメールでも受付中！
<https://www.thousanddesigns.com>

9月の課題 「ノートイラスト」

学校のノート作りが楽しくなるプチイラストや飾り枠、文字の装飾を練習しました！作品としてまとめる内容は自由に考えてもらいましたが、みんなの好きなものが詰まった素敵なノートができました！



色や装飾に統一感があつておしゃべり果物の表情がとってもキュート！

言葉もレイアウトもわかりやすくまとまっています！早速作ってみようかな！

2色にまとめられていて、いろんなイラストがあるのに統一感があります！

ゆるっとしてないながらも特徴をしっかり表現できています！

アンダーラインの色が惑星の色と対応していてわかりやすい！カラフルで綺麗

家族みんなのイラストがかかわりやすく、楽しい印象です！



デジタルでまんがも！

デジタルもめきめき上達しています。色合いが素敵。



水面に映る様子がきれい！

小学生の生徒さんが初めて手のデッサンに挑戦



毎回いろんな表情の猫を描かれています

今月の課題以外にも、リクエストにお応えして好きな作品を作ることが出来ます。ぜひいろいろな画材やモチーフにチャレンジしてみてくださいね！

リクエスト作品

デザイン事務所がひらく
絵画教室
たより

お客様のご予算に応じて、手抜きをしない最適解をご提案いたします。また、デザイナーが教える絵画教室や地域観光サイトも運営中。



江東区で人気No.1!

デザイン事務所がひらく「やさしい絵画教室」
designroom.me



永代を楽しむサイト「えいたいみたい」
eitai.tokyo



夜間している証明写真店「ヨルビー」
yoru-p.tokyo

カタログ、チラシ、DM、WEB、会社案内等の制作はサウザンドデザインにお任せください。



創業12年、「長持ちするデザイン」の制作に励んでいます。
株式会社サウザンドデザイン

チラシ DM カタログ WEB 情報誌

お問合せ
お見積もり
はこちら

0120-095-905

(月~土 10:00-18:45)

〒135-0011

東京都江東区扇橋1-12-16 宝ビル1F

株式会社サウザンドデザイン まで

江東区 デザイン会社

Eメールは
こちらから

会社HP





■スタッフの声■ だいふ暑さが和らぎました。体調に気をつけて過ごしていきたいです！（佐久間）

できごと 最近の ぽろぽろ

新オフィス始動



段ボールも片付き、インターネット環境もようやく整いました。この場所で初めての撮影も無事終わり、これでやっと住吉オフィス本格始動です！



巨大シール貼り

絵画教室の看板シールは全長2m超え！2人がかりでなんとか貼り、窓をはめ直すのも一苦労。がんばって仕上げた入口には愛着が生まれました！カラフルが目立つ！



試行錯誤の課題

試行錯誤の末に完成した10月の課題。いろんな素材や形を試して、みんなワクワクするミニジオラマになりました。大人も子どもも楽しめる課題です！

第18回 杉並みんなの食堂レポート



今までやってきた救世軍杉並小隊での開催は今回最後でした！カツ丼はボリュームたっぷりみんな満足そうでした。この場所でのあたたかい空気を忘れず新しい場所で続けていきますので、応援よろしくお願ひします！

デザイン事務所がひらく やさしい 絵画教室

引っ越しを経て、新たな場所で再スタートとなりましたので、改めて絵画教室についてご紹介します！「デザイン事務所がひらく、やさしい絵画教室」では、絵を楽しむ体験をすることを第一の目標にしており、生徒さんそれぞれのペースでのびのびと自由に絵を楽しんでもらっています。

4つのコース

「子どもマンツーマン」「子どもグループ」「大人マンツーマン」「デジタル」、4つの中から自分の目的に合ったコースを選んで受講できます。マンツーマンでは生徒さん一人一人に合わせたペースで、レッスン内容もじっくり話しながら進めています。グループレッスンではおしゃべりを交えた明るい雰囲気の中、みんなの作品を見たりアイデアを共有しながら楽しく取り組むことができます。



出張絵画教室も承ります！

大人数イベント「絵画教室もりもり」や学童での出張イベントを経験し、出張教室が可能になりました。

70～90分の時間内にクオリティのある作品を完成させられるプログラムが私たちの強みで、単発イベントも盛り上がり、みなさん満足げな様子で作品を持ち帰られるので、とても嬉しいです。



楽しいレッスンをご用意してお待ちしています！

デザインに関してのお問い合わせ・お見積もりはいますぐ！

<https://www.thousanddesigns.com>

江東区デザイン会社

TEL: 03-6666-4890 (10:00~20:00)
0120-095-905 (フリーダイヤル)

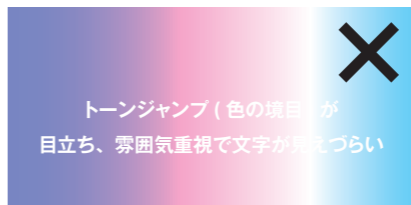
Eメールでも受付中！
info@thousanddesigns.com

「若い人よくやるよね」

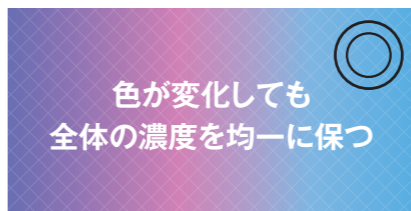
今回は、若いデザイナーがやりがちでデザイン処理をいくつかあげてみます。

① ベタなグラデーション

…これはWeb (RGB) の影響もあるかと思いますが、印刷物の場合、ビットマップなグラデーションというのは思ったよりキレイに出ません。画面では美しく見えるので無理はありませんが…また、その上に載せる文字とのコントラストも大事です。古参ならそもそも広い面でグラデーションは使用せず、どうしても必要な場合にはテクスチャや隠し味的な色の配合を考えます。



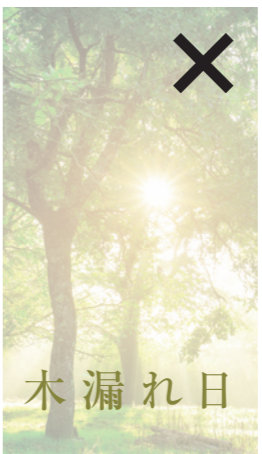
トーンジャンプ (色の境目) が目立ち、雰囲気重視で文字が読みにくい



色が変化しても全体の濃度を均一に保つ



この状況



木漏れ日

木漏れ日

木漏れ日

パーセンテージはそのままに、写真の美味しところをがきちんと見えるように配置した上で、他はぼかしたりして消し、文字の視認性を優先させます。大抵の写真はその写真の持つ「核」の部分が見えていければ、他は見る側が無意識に補完するものです。

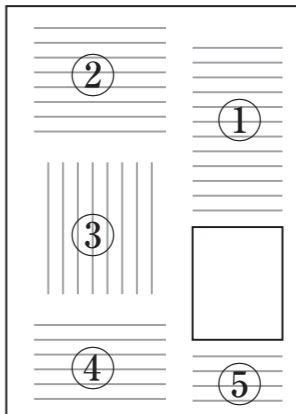
④ 明るい背景に明るい文字を載せる
…当然文字は見えづらくなるので、そこにフチをつけたり影をつけたりするのですが、それはどちらかというと対処療法です。デザイン上狙ってその表現にした、というのであれば、明るい背景には濃い色の文字、濃い背景には薄い色の文字を載せるのが基本です。



文字を載せるよ



文字を載せるよ



まさかの目線誘導

くちやで、読んでいる人がどの順番で文章を読み進めるのかわからないようなレイアウトの指示をいただくことがあります。ある程度意向を汲みつつ、あまりにひどい時は指摘させていただく、という風になっています。

今の時代を蔑む 親父にならないように

他にも細かいところはたくさんありますが、いろいろ考えてみると、若いデザイナーの問題というより「世の中の流れ」なのかな、とも思います。先日マーケティングの会社の社長さんとお話をさせていただいた際に話題に出たことをざっくりまとめると、昨今のデザインの流れは、Webデザインの影響が大きい、ということなんです。これは世の中にWebが広まったことで、経験の浅いデザイナーやそもそもデザインを勉強してこなかった人がデザインをするようになり、デザイン自体のハードルが下がったと同時にクオリティも全体的に下がってしまったというところだと思います。もちろん優れたデザインを生み出しているWebデザイナーがいる一方で、という話です。

文字配置の作り込みの粗さや場当たり的なデザイン処理、リアリティの薄い画像加工…これはデザイナーがきちんと直す、というレベルには既になく、それをディレクションする人、依頼する人、それを評価する世の中全体のスタンダードの問題で、もはや誰にも止められない流れです。「若い人に任せて老兵は去る」で、だまって柔軟に対応していくのどちらかを、がっつき社長世代は迫られている、ということなのかもしれません。ただ、これは先人が証明してしまっていて、残っていくのは間違いなく後者です。その文字の美しさに固執した故にデジタルデータ化しなかった写真というブランドについてある方が語ったセリフが忘れられません。「彼らは時代に負けたんじゃない、プライドに負けたのさ」。